

第2回雲南市上下水道料金等審議会 議事録

1. 日時：令和6年11月1日（月） 午後1時30分～午後3時30分

2. 会場：雲南市上下水道局 2階会議室

3. 出席者

（審議会委員）

福間久仁子 委員、広野充明 委員、中村典子 委員、松村享江 委員、田原仁美 委員、徳島末美 委員、医療法人陶朋会 平成記念病院 事務局長 永井大介 委員、ホシザキ株式会社 総務部島根総務課 総務係長 島淳一 委員、社会福祉法人萌友福祉会 特別養護老人ホームみとやの郷 事務局長 坂本偉健 委員、片寄邦良 委員・・・（委員10名）

欠席者 委員2名

（事務局）

吉山 治 副市長、安部哲男 上下水道局長、飯島昭 次長兼下水道課長、村重悦子 総務課長、小田川謙一 工務課長、永井慎也 営業課長、山根史朗 統括主幹・・・（事務局7名）

4. 審議日程

（1）審議

○雲南市水道事業及び下水道事業経営戦略の一部改定について

- ・ 審議での意見・質問について
- ・ 経営比較分析（経営指標）について
- ・ 答申書（案）

（2）閉会

[次第]

1. 開会（進行：飯島次長）

2. 会長、副会長挨拶

坂本偉健 審議会会長

3. 挨拶

吉山 治 副市長

4. 施設見学

- ・ 下熊谷第1水源地
- ・ 木次三刀屋浄化センター

雲南市上下水道料金等審議会条例第7条第2項に基づき、委員の半数以上が出席しており会議が成立していることを報告

----- 以後、審議会条例第7条に基づき、会長が議長となる -----

5. 審議

(1) 雲南市水道事業及び下水道事業経営戦略の一部改定について

- ①審議での意見・質問について … 資料 NO. 1 (説明：飯島次長、村重課長
小田川課長、永井課長)
- ②経営比較分析(経営指標)について … 資料 NO. 2 (説明：村重課長)
- ③答申書(案) … 資料 NO. 3 (説明：村重課長)

事務局より説明した後、委員からの質疑を行った。

【質疑】

(片寄委員)

下水管の耐用年数はどれぐらいか。

(村重課長)

法定耐用年数は50年。

(片寄委員)

それともう1つ、この間から話が出ている、子供たちに水道のありがたさを教えたかどうかという話があり、見学に来るということでしたけど、大体どこの学校も来ているか。

(小田川課長)

確認まではしていないが、大体来ていると思う。

(坂本会長)

ありがとうございます。こういうことをしっかりと学校教育現場にPRしていただき、見学等ができない場合は、逆に出前講座などで何かグッズを持って行って説明して頂くというのではと思う。

(坂本会長)

はい。それでは、本日初めてご参加いただいた方にご意見いただければと思います。

経営戦略のことでなくても、先ほどの視察に行った感想でも結構です。

松村さんどうですか？

(松村委員)

下水道の施設に回らせていただいてとても大きな施設が市内に何か所もある施設が、町中心部はいいかもしれないが、その近辺はだんだん人口が減ってくるので、いくつか施設があんまり使われなくなるのではないかなと思って、今後これを維持していくのは大変だ

ろうなと感じた。

(田原委員)

委員になるまで全然水道のことにあんまり関心を持ってなかったが、今日の見学をきっかけに、自分自身も興味関心を持ったり、先ほどもおっしゃったが、ライフラインってすごく大事なものだからこそ、なんか当たり前って思いがちだが、すごく努力をしていただいたり、休みの日も夜も出勤することがあると聞き、そういった努力に対して、小学生とか雲南の子どもたちが感謝の気持ちを持てるようなイベントじゃないですけど、なんかそういうきっかけももっと増やしていければいいなという風に思った。

(坂本会長)

ありがとうございます。上下水道局に職員採用の応募をされる子供たちが増えればと思っている。

(永井委員)

この経営戦略っていうのは広く市民の方にも公表されるものか。

(村重課長)

どこかで発表するということはないが、ホームページ等で掲載して見ていただくことを考えている。

(永井委員)

多分これって、決められたフォーマットがあって、それに則って作成していると思うが、これを見ても、今、上下水道にとって最重要課題は何で、中長期的に何を優先的に取り組んでいくかっていうのがわからない。数値目標はともかくとして、この経営戦略が中長期的な経営計画だという説明は前回あったが、これから先、中長期的に何を重点的にやっていくのかをもう少し分かりやすく、いわゆるダイジェスト版みたいなものがあつたほうがいいのではないか。

(安部局長)

経営戦略は、経営に視点を向け、法的に決められて作成しているが、一方で、例えば水道のハード側の今後何をしていくかという計画であったり、下水道にしても同様に、どういう風に今後施設を維持管理していく計画を個別もあるが、これが市民の皆さんにきちっと全てお伝えができていくかということ、なかなかできてはいない。

この経営戦略を含め、次の段階として、上下水道局として計画を一本化したような連動したものに、次の段階ではそういった計画に進化をさせ、それを皆さんにお分かりいただきたい

て、それは例えば水道料金などにも連動していくので、そういったところで理解を深めていただけるように考えているところである。

(広野委員)

人口が右肩で上がるなんていう計画というのはもうあり得ないので、今の状況の中では減っていくことを我々がいくら抵抗しても、行政の皆さん方が抵抗されても、これが増えるということはもうないという現実はやっぱりしっかり受け止めて、経営というものの戦略をやっぱ立てるべきだと思う。

今、雲南市が3万2000人ちょっとだが、これがもう割り込んでいくということをやはりもう前提として考えていた時に、施設をどういう風に管理していくのかとか、使用料金をどういう風な推移を持って今後持っていくのかということを緻密に考えていかないと、経営戦略というのは、おそらくこの500平方キロのこの広大な敷地の中でたった2万人しかいない状況になった時に、今ある管路なんかの施設をじゃあそのまま維持できるのかと言ったら、到底できるわけがない。

そういうことも、やはり長期的な展望というのはもう持っていただいて、実際にそういう事態がもう来るよという状況は、皆さん方、職員の皆さん方が絶えず持ちながら経営に携われないと本当困られるだろうと思う。

また、先ほど永井委員がおっしゃっていたが、一般の市民の皆様方にこういう資料を見せてもまず分からない。水道も下水道もないと困る施設なので、これを長期的に安定した経営をして、水も安定して供給できるような仕組みというものを継続していただけるようなことを検討し日々の中で考えていただければなという風に思う。

また、統廃合というのは、いずれの施設もだが、必須だと思う。あと、上下水道局の中のシステム等あると思うが、これを建設部など他部局とタイアップして運用していけば経費削減等、様々な効果があるのではないかと考える。

また上下水道の仕事を市民にしっかりアピールすることが水道事業に関しての市民の皆さんの意識向上につながるのではないかと思う。

例えば管路の維持管理に関わる部分なんかは、例えば建設部とタイアップして、向こうの方に作ってもらえるような道路の管路図とか、GPSの精度が非常に向上してきているので、そういう図面にしてもソフトにしても、そういう持ち方をされたら経費もある程度節減できるのではないのかなという風に思ったりもした。そういうようなことをとりあえずこう考えていかれないとなかなか難しいなと思う。上下水道局の皆さん、この間も言ったが、水道、下水道に勤めていらっしゃる皆さん方が一体どういう仕事をされていて、その人たちのおかげで水が安定的に供給していただけるし、水の処理なんかも滞りなく処理していただけるという、実はこんなことをしているんだなというのなかなか言いにくいところもあるかもしれないが、やはり皆さん方がそういう意識を持って、施設に関する関心を持ってもらうことが将来に向けた、例えば統廃合にしても、その管路

の例えば延長の大幅な縮小とか、そういったようなことの、将来に向けて理解が深まるのではないのかなという風に思う。

僕は今までそういうところで携わってきたという思いもあるので理解はもちろんできるが、普通に生活している皆様方は この間も言ったように、蛇口をひねれば水が出る、コックひねれば水が流れる、これが当たり前ではないということ、そういったことを市民の皆様方に広く知らしめて意識を持っていただくことがすごく大事なことだと思うし、そういうことをやりながらやっぱり経営というものは 考えていかれないといけないんだろうなという風に思う。公共事業、こうしたインフラが民間なんかに出すようなことがないような、そういうことで維持していけるように頑張っていたきたい。

(安部局長)

人口の減を1番大きな背景として、施設の合理化というところのご心配の点を数点挙げていただいた。

DX化や広域化の話、なかなか決定打がない中で小さなことを積み上げていくっていうことしか方法はないが、様々な視点から、建設部との連携などを模索しながらやっていかなくてはいけないと思っている。もう1つ、先ほどの市民の皆様への理解という点について、通常使ってる時には何も考えず水が出る下水道が使えるっていうのが当たり前、そうしたサービスを私どもが提供するの、これも勤めではある一方で、先ほどの子供さんへの学習であるとか、それから料金を改定していくというのが、これは避けられないことであるので、こういったところを将来的にわたって、理解できるよねということをしていくためには、通常どうしたことがあってっていうところは、やっぱりこれはきちっと周知なり皆さんの理解を深めていくこと、これが皆さんへの理解を深めていただくことになるのかなと最近考えているところである。

また、本日下水道の施設を見学いただいたが、非常に多くのマンホールポンプと言いつて、水が溜まったものをどんどんポンプで送って、統合を進める中で、最終処分場の方に、収集の方に持っていきますけれども、そのポンプの中で 溶けないもの、一瞬流されますと、例えばティッシュペーパーや 布類、こういったものが入ってるだけで、即施設が停止して、修繕、分解ということで数十万円の経費がかかる、こういったことがあるので、皆さんに適切に使っていただくっていうことをお願いしていくっていうのも非常に大事な仕事だになっていうことを思っている。これから冬季に向かうが、凍結対策も同様に、皆様に使っていただくための周知、注意、お願いといったことを、これも欠かさずやっていく、地道にやっていくっていうことも大事だなと思っている。そうした2つの点を私どもこれからも肝に銘じながら 業務に当たっていくっていうことが大事だろうと思っている。

(副市長)

本日雲南市が誕生してちょうど20年。次の10年に向けて、第3次雲南市総合計画の議論をちょうど今日からパブリックコメントが始まる。

いろんな議論これまでもしてきたが、最近災害が多発していることもあり、やはり町づくりに、安心、安全な地域作りということが、より一層重要になってきている。その時に、災害対応ということに加えて、通常の生活を守るためのインフラがいかに重要であるか、最近では、よく水道や下水のことがあげられる。1つ切り口として、防災教育を やっていくということまちづくりの取り組みとする。そしてもう1つ、雲南市の事業は全て財源を確保しながらやらなければいけないということがある。

そうした時に、やっぱり防災関係、国も、国土強靱化であるとか緊急防災の記載等、制度を充実させてきているので、ぜひ、防災の切り口に、これから色んなことをやっていくまちづくり、その中に水道、そして子供たちの教育も入れながら取り組みが必要かなと思っているので、ぜひまた皆さんも、今後案が示されるので、この審議会の議論も踏まえてパブリックコメントで議論をいただき、ご意見いただくとありがたい。

(広野委員)

今後のこの事業を行う上の必須の要件として、施工業者の育成と、従業員の確保が難しく事業存続の危機にあるところもあるように聞いている。やっぱりいろんな業種があるわけだが、その中でやはり何が1番大事な業種かと言ったら、みんな大事。インフラの整備や管理をしてくれる業者がいなかったら流通も生活も成り立たない。そのため、その業者をしっかりと将来にわたって安定した経営ができるような計画的な発注など、計画を作っていただいて、末永い安定した営業ができるような環境整備もしないと、自治体が頼るところも無くなってしまうと思う。

(副市長)

今のご意見は、市の様々な事業全般を担う地元の業者さんに言えることで、そういう要望もいただいている。

やはり災害もそうだが、あらゆる生活サービスにおいて、その担い手として業者がいないと、サービスができないということになる。雲南市も、地域に根差す企業については振興条例などを持っており、その育成、そしてやっぱり事業量を確保していくということを予算を通じてということになるが、しっかりやっていく。開発はなかなか難しい時代だが、維持やメンテナンスなどをしっかりやっていく時代になってきているので、工夫をしながら事業量を確保し、そしてまた地元の事業者の状況を常に把握しながら、いろんな意見交換をしながら、事業力を確保し、支援して、一緒になって、その地域を守って維持していくと、こういうことで引き続き取り組んでいきたいと考えている。

----- 審議終了 -----

7. 閉会

安部局長あいさつ